

# The Therapeutic Efficacy of Antegrade Balloon Aortic Valvuloplasty under Intra-aortic Balloon Pumping for Treating Cardiogenic Shock due to Critical Aortic Valve Stenosis

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2016-03-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 平野, 悌志 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2001835">https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2001835</a>

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 1692 号

The Hemodynamic Efficacy of Antegrade Balloon Aortic Valvuloplasty under Intra-aortic Balloon Pumping at Treating Hemodynamically Compromised Critical Aortic Valve Stenosis

(血行動態破綻を来した重症大動脈弁狭窄症に対する大動脈内バルーンパンピング使用下での順行性大動脈弁形成術における血行動態的有効性)

平野 悌志 (ひらの やすし)

博士 (医学)

### 論文審査結果の要旨

本論文は、経皮的順行性大動脈弁形成術 (ante BAV) の際に大動脈内バルーンパンピング (IABP) を併用することによる血行力学的影響を検討したものである。本論文では外科的大動脈弁置換術 (AVR) が困難な重症大動脈弁狭窄症 (AS) に対する ante BAV を施行する際に、重篤な血行動態破綻を来している症例においても適切な判断にて IABP を併用することで、周術期において致死的血行動態破綻が回避され、術後早期の良好な治療成績が得られうる事を明らかにした。

対象は、2006 年 10 月から 2013 年 3 月の間に当施設を中心として施行された ante BAV 症例のうち経胸壁心臓超音波にて大動脈弁口面積 (AVA)  $< 0.75\text{cm}^2$  で、適切な観血的血行動態評価が可能であった 47 症例。心原性ショックと著明な左房圧上昇を認めたため IABP 下に ante BAV を施行した 14 例 (BAV with IABP 群) と、相対的に血行動態が安定しており IABP を用いなかった 33 例 (BAV alone 群) に分け、治療上の選択に基づいて群間の比較を実施する観察研究を行った。結果は、BAV with IABP 群は、BAV alone 群と比較して弁口面積、経弁圧格差、および左房圧において、施術前後で有意に高い改善率が認められた。

本論文では、重症大動脈弁狭窄症が主因で血行動態破綻を来しており低左心機能傾向である症例であっても、適切な判断にて IABP を併用して ante BAV を施行する事により、施術は安全に完遂され、施術後の血行動態は相対的に血行動態が安定している症例に対する ante BAV と同等程度まで改善されうることを示した。

本論文では、AVR 不適合重症 AS 患者における ante BAV において、血行動態が破綻している症例においても適切に IABP を併用することで安全に血行動態の改善が得られうる事を示した臨床的に意義のある論文である。

よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。